

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム 藤野いこいの家	評価実施年月日	平成 21年 2月 1日
評価実施構成員氏名	三上 宏美 皆川 節子 佐藤 和子 武藤 安紀 高氏 子サ 寺田 雅美 安井 サイ		
記録者氏名	三上 宏美	記録年月日	平成 20年 2月 1日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>当事業所独自の「運営方針、基本方針」がある。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>職員会議、フロア会議、ミーティング等で話し合い共有し、日常業務の中で理念の実践に取り組んでいる。また、1階独自の3つの理念「慣れではなく馴染みの関係」「のんびり気ままにゆっくりと」「笑いのある生活」を職員で作成し、より噛み砕いた理念のもと、日々実践を振り返り行っている。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>入居時に家族に説明しており、フロアで見やすいところに掲示もしている。地域へは運営推進会議や夏祭りなどの行事、家族交流会で説明し、またホーム便りを回覧するなどして理解を得るよう努めている。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>町内会春の清掃、花壇の苗植え、夏祭りやクリスマス会などの行事の時は、多数の地域の人、ボランティアの参加、協力があり交流の場としている。</p>	○	<p>行事以外でも気軽に立ち寄ってもらえるよう、日常的な付き合いができる様務める。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域の夏祭りに参加したり、花壇の苗植えや、水やり、草取りなどの地域活動に利用者と共に参加、また自治会の交流会に参加した</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>2階管理者が口腔ケアのエキスパートであることから、運営推進会議の場で構成員メンバーの方達に「口腔ケアの必要性」「健口体操」についての実技講習を行ったり、人材育成の貢献として実習生の受け入れを積極的に行っている。</p>	○	<p>構成員の方から、今後「講演」を依頼したいとお話もあったので、その際には応じていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>職員会議の場で全職員に質の評価の意義を周知させ、評価の結果についても共通意識して、実際の現場ではサービス改善の方法を具体的に話し合いをして、取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議で報告や話し合いを行い、意見をサービス向上に活かしている。</p>	○	運営推進会議の開催が、2ヶ月に1回行えるよう計画、実行していきたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市町村職員や包括支援センターに訪問し、関係作りを行っている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>利用者1名が9月より成年後見制度を利用開始したのを機に、制度について理解を深められるようケースの実際とも関連させて勉強会を行った。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>管理者、職員は高齢者虐待防止研修会に参加した後に、伝達講習をもち、スタッフ全員で共通の認識のもと施設内で虐待が無いよう、またいつでも参考になれるようマニュアルを備えて予防に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>利用者や家族の意向を十分に受け止め、十分な説明により理解、納得を得ている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱の設置もあるが、日頃利用者から意見や不満を引き出すような関係作り、会話の工夫にも配慮している。また家族を介して聴取するよう努めている。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>家族へのお便りを2ヵ月毎定期的に書いている。その他、受診や健康上の変化が見られた時も都度、連絡・報告をしている。お小遣いなどの小口預かり金収支明細については、毎月報告承認を得ている。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族がホーム来所した時に、必ず話し合える時間を取り、意見や不満を出しやすしたり、家族の意思を確認するよう努めている。苦情処理窓口設置、外部への相談体制も明確になっている。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月、定例職員会議があるので、話し合いの中から意見、提案を吸収、活かしている。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>できるだけ状況に合わせた対応ができるよう始業時にはスタッフ間で予定を話し合い、また急きょ必要事態に於いても勤務調整し、協力体制で業務を進めている。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>基本的には、各ユニットのスタッフは固定して、顔なじみのスタッフによるケアを心がけ信頼関係を築いている。異動などでやむを得ない場合は、その時期や引継ぎの面で最善の努力をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>当法人の計画に沿った、あるいは職員の希望する研修会への参加、資格取得のための学習、トレーニングを推進している。研修参加後は、毎月のフロアー会議や全体会議で発表してもらい、研修に参加できなかった職員も勉強できる場を確保している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>区内、管理者連絡会、交流会が定期的であり、そこでの勉強会、情報交換によりサービス向上に役立てられるよう支援している。また、昨年は入居者を含め夏祭りの交流などを相互に行った</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>日常や面談時にスタッフのストレスや悩みを把握するよう努めている。また、職員同士の人間関係を把握したりするよう努めている。1階では半年に一度、管理者とスタッフで面接を行い、悩みや要望を聴く場を作っている。また、親睦の場を作り、気分転換を図れる機会を確保している。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>スタッフの資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を聞きながら職場内で活かせるよう環境づくりに努めている。また、管理者以下6名のスタッフに対し、各々得意分野のリーダーとなってもらい、各自の力や意向を重視しながら職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入所前に自宅を訪問したり、また施設や病院に出向き本人と会って話をする機会を積極的にもち、本人自身の気持ちを聞き、受け止める努力をしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>事前に自宅を訪問したり、施設へ訪問していただく機会を作り、家族が困っていること、不安に感じていること、求めていることを良く聴き受け止める努力をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	通所介護、小規模多機能型居宅介護も有している関係者とも相談し、支援、対応に努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所前に何度か施設を訪問していただき場の雰囲気に慣れて、のち安心して生活をしていけるよう工夫、配慮している。家族とも事前に良く相談して共に協力的に進めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日々社会の動き、ニュースなど勉めて話題にし、話し合うようにしている。またアクティビティや行事なども共に楽しみ、鉢植えの手入れや野菜の育て方などを、教えてもらいながら共に野菜作りをしている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の日々の生活の様子を電話や手紙、写真を添えたりして家族の関心が深まるようにし、行事にも参加していただき、一緒に楽しめるよう計画するなど家族を支えていくことを大切にしている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	今までの本人、家族の生活やそれぞれの思いを受け止め、理解しより良い関係が築いていけるよう支援している。また、気軽にホームに来ていただく気概が増える様、行事・食事会を企画し一緒に過ごしてもらう時間を作っている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	当グループホームには、デイサービスが併設されており、そこに通われていた利用者が入所している割合が多い。その為、入所後も馴染みの人や通い慣れた場所に気軽に訪問できるよう、両スタッフ間で協力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	趣味や好み、性格などを考慮して仲のよい友達づくりをしたり、自らの自発的交流が困難な利用者についてもレベルにあった交流ができるよう介入、調整している。また、心身の状態や気分、感情で日々変化する場面もあるので、注意深く観察し見守るようにしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	長期入院などでサービスの利用が終了された方には、訪問したりして継続的な付き合いができるよう心がけている。また、契約終了した利用者から、電話や手紙を頂いている。その際、可能な限り対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの希望、意見を把握している。困難な場合においても本人本位に検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人自身の語りや、家族・知人の訪問時または、家族へのお便りの中で少しずつ把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりについて、良く観察し記録に残し、スタッフ間で情報交換するなどして、総合的に把握している。また、日々の生活の中での言動や動作、訴え等を見流さないよう注意して支援するよう心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	個別ケース毎、スタッフの受持ち制をとっており、介護支援専門員の監理のもとにケースカンファレンスの場で関係者全員で話し合い、意見を取り入れ計画を作成している。センター方式を用いており、アセスメントを含め、意見交換や事例検討会、カンファレンスを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	通常6ヵ月毎のプラン見直しをしているが、利用者に変化が生じた時には随時見直しをして、新たな計画作成をしている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別ごとの記録を大切にいき、情報を共有して実践や介護計画の見直しに活かせるようにしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	家族の状況に応じて、通院の送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。また、併設デイサービスにて、レクリエーション、体操等に参加できるよう、協力体制を整えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	行事に際しては、ボランティアの協力を得ており、利用者の無断外出や防火訓練時は警察や消防との連携体制をとっている。また利用者ができるだけ文化に触れられるよう高校の演奏会、小学校の学芸会等に参加できるようにしている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の希望に応じて、訪問理美容サービスを利用してもらっている		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	日頃、運営推進会議等を通じ話し合いをしており、必要性が生じた場合は対応できるよう体制作りをしている。それにより、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者ごとのかかりつけ医受診援助や訪問診療を受けるなかで、看護職の方とも気軽に相談しており健康管理を支援している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の専門病院受診時には、担当医に利用者の状態を良く伝え相談したりして、利用者が診断、治療を受けられるよう支援している。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	当事業所に看護師が配置されており、いつでも必要なときに相談して日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	面会の機会を多くもち、その機会に医療関係者との情報交換、相談に努め、担当医師から容態や今後の見込みについて説明を受け、早期退院受け入れに努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	出きるだけ早い段階から、スタッフはかかりつけ医と話し合い、家族とも話し合って全員で方針を共有している		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人や家族の意向をふまえ、医師、スタッフが連携を取り安心して納得した最期が迎えられよう取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ホームでの生活日課を伝えたり、医療情報など健康管理面についても話し合うことにより、環境変化による本人への負担を極力少なくできるように努めている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>プライベートな場面においてもさり気ない言葉かけに配慮し対応している。記録物などの取扱いにも十分配慮している。また、施設内研修で「プライバシー保護」をテーマに勉強している。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者自身が決めたり、希望を表したりすることを大切にし、それを促すよう取り組みを日常的にしている。本人の返答能力に応じ質問に工夫したり、選んでもらう場面作りをしている。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>起床時間や食事時間等においても入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせることを大切にしながら支援している。特に、本人の生活歴や習慣を出来る限り尊重し、個別の対応ができようになっている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>個性を大切に身だしなみ、おしゃれを支援している。毎月1回の訪問理美容サービスを提携、利用していただいている。他、家族が定期的な美容室へ連れて行ってくれる方もいる</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>可能な限り個別の好みを取り入れ献立作りをし、買物や簡単な調理も一緒に行き、食後の片づけまで利用者の参加を促し、力を発揮できる要支援している。食事の場面では、食欲を高め美味しく食べられるよう言葉かけや働きかけを行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一人ひとりの好みを把握しており、状況に合わせて日常的に楽しめるようにしている		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表により、個別の力やパターンを把握している。できるだけ排泄の失敗やオムツの使用を減らすようにして、トイレにて気持ちよく排泄できるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	夜間入浴の体制も整えてあり、入居者が希望する時はいつでも入浴を楽しめるようにしている。または、入浴時に数種類の入浴剤を用意しており、入居者自身に選んでもらえるようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	その方の疲労、心身の状況に応じて休息できるようにしている。夜眠れない入居者には、1日の生活のリズム作りをして夜間安眠につなげている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食材購入、掃除機かけ、洗濯物たたみ、食器ふきなど入居者一人ひとり、何らかの役割意識を持って日々担っているので継続できるよう支援している。好きなテレビ番組が楽しめたり、外出での気晴らしをしたり、場面作りをしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理が可能な方は、小額であれば本人が所持している。職員はショッピング時に援助している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買物や散歩、ドライブ、外出レク、外食レクなど個別の希望を取り入れて、様々な形で出来けられるようにしている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	「温泉に行きたい」「墓参りに行きたい」などの思いが出された場合、ご家族の協力のもと支援している。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	手紙のやり取りができるよう希望時は代筆もし、電話も日常的にできるようプライバシーに配慮しつつ支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問は自由で、食事と一緒にでき、居心地良く過ごせる雰囲気作りをしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	すべての職員が禁止の対象となる「具体的な行為」を正しく理解し、身体拘束しないケアに取り組んでいる。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関の施錠しないで、一人ひとりの行動の特徴を把握し、さり気ない声かけをしている。全ての職員が鍵をかけることの弊害を理解している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	プライバシーに配慮して、昼夜を通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	全てを取り除くような事はなく、利用者の状況変化によっては注意を促していくなど、ケースに応じた対応をしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの介護上の課題を明確にして(アセスメント)個別に応じた予防策について知識を身につけ、事故防止に備えている。また災害防止についても、全員で勉強会や実技訓練の機会をもっている。	○	万が一の事故が発生した際には、速やかに事故報告書を作成し、事故原因の今後の具体的予防策を検討し、家族への説明と報告を行っている。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時に備えて応急手当や初期対応ができるよう勉強会をもち実技訓練している		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	毎年避難訓練を実施しており、緊急時には地域の協力が得られるよう体制作りをしている	○	当事業所、民生委員、町内会を含めた連絡網を作り、夜間の緊急時に備えた具体的な訓練を実施していきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	家族に良く説明し、抑圧として感じさせないよう暮らしを大切にしたい対応策についても話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日頃、一人ひとりの体調を観察に努め、変化、異変に対しては速やかに、管理者の報告するとともに、職員間で共有し対応している。状況により医療受診につなげている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	「薬の説明書」を参考にして、理解を深めている。指示された薬剤が確実に服薬できるよう、また与薬後の変化についても確認に努めている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘の原因や及ぼす影響を理解しており、飲食物の工夫、運動を働きかけ、予防に取り組んでいる。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	一人ひとりの口腔状態や清掃監視能力に応じ、保清援助をしている。口腔ケアの重要性を勉強し、全ての職員が理解している。食前の「健口体操」を継続して行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	「生活チェック表」に食事摂取量や水分量を記載している。時間配分も考えて、一日を通じて必要量が摂れるよう一人ひとりの状態に応じた支援をしている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	高齢者施設で発生しやすい感染症についてマニュアルを備えており、予防対策に努めている。また、施設内研修も行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	「衛生チェック表」をもとに毎日、台所は清潔に保ち調理器具、フキンは消毒し衛生管理に配慮している。食材は毎日買物をして、新鮮で美味しく安全な食材使用に努め、食中毒を予防している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	季節ごとに楽しめる草花を植えたり、飾りつけを工夫して一般家庭の様な雰囲気作りをしている。特に草花が乏しくなる冬期には、イルミネーションを点灯させ明るい印象になるよう工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	手作りのノレン、壁を下げ、カレンダー、写真や展示品利用者と一緒に作成し飾っている。出窓には季節感が感じられるよう鉢植えを置いたり、調理する音が聞こえたり、生活観を採り入れ居心地良く過ごせるよう工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	日当たりが良く景観を楽しめることができる廊下出窓のところに、植物を置き、イスを設置して1人になったり、利用者同士お茶を飲んだりして憩えるような工夫をしている。 冬期間、出窓に「いい農園」と名付けたプランター菜園を作り、入居者とともに花の種や野菜を植え、水やり等も自由にできるよう工夫している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には使い慣れた家具や好み装飾品が持ち込まれ、家族写真や仏壇なども置き、本人が安心して居心地良く過ごせるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	適時換気を行っている。冬期間は特に保湿にも配慮し対応している		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>廊下、浴室、トイレ、エレベーターなどに手すりを設置して、転倒予防など安全面と利用者の自立支援に配慮している。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>目印となるような手作りノレンや表示板を下げている。自室にも利用者の状況に応じて表札・写真・似顔絵・利用者自身が書いた絵などを工夫している。また環境の清掃にも気をつけ、誤認による混乱を防ぐようにしている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>建物の外回りは花壇や野菜畑を作り、芝生にはテーブル、イスを置き、お茶を楽しみながら日光浴をしている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・美味しい食事の提供一隣に生協があり、いつも新鮮な食材が提供可能、利用者と散歩をかねていつでも買物に行ける
- ・近隣に各科病院が揃っているので速やかに受診対応可。また看護師配置があり、健康管理や医療面、安全面で安心して過ごせている。
- ・音楽療法を取り入れている
- ・内にこもらず、できるだけ外出、行楽など外に出るようにしている
- ・口腔ケアのエキスパートがいて、口腔保清管理に力を入れている。
- ・食前に「健口体操」に力を入れている。
- ・デイサービスが併設されており、通いの方たちとの交流の機会も多く生活に広がり潤いになっている。